

ネイティブリゾプス属ペクチナーゼ

Cat. No. NATE-0536

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明

ペクチナーゼは細胞壁の成分であるペクチンを加水分解します。彼らはメチルエステル化され

たペクチンや脱エステル化されたペクチンを攻□する可能性があります。これはペクチナーゼ

活性の源であり、セルラーゼおよびへミセルラーゼ活性も含まれています。

用途 植物の原形質体調製に使用され、細胞小器官の分離前に細胞壁を消化します。ペクチナーゼ

は、Rhizopus sp. から得られる酵素で、細胞小器官の分離前に細胞壁を消化するために植物の原形質体調製に使用されます。これは、ペルオキシソームおよび小胞体におけるペロキシン 16を研究するために、アラビドプシスの根細胞の細胞壁を消化するために使用されてきました。ペクチナーゼは、植物組織への植物病原体の侵入、農産物の腐敗、さまざまな食品加工お

よび植物バイオテクノロジーの□用における役割を研究するために使用されます。

別名 ペクチナーゼ; ペクチンデポリメラーゼ; エンドポリガラクツロンナーゼ; ペクトラーゼ; ペク

チンヒドロラーゼ; ペクチンポリガラクツロンナーゼ; エンドポリガラクツロンナーゼ; ポリ- α -1,4-ガラクツロン酸グリカノヒドロラーゼ; エンドガラクツロンナーゼ; エンド-D-ガラクツロンナーゼ; ポリ(1,4- α -D-ガラクツロン酸)グリカノヒドロラーゼ; ポリガラクツロンナーゼ;

EC 3.2.1.15; 9032-75-1

製品情報

由来 リゾプス属 (Rhizopus sp.)

形態

EC番号 EC 3.2.1.15

*CAS*登□番号 9032-75-1

活性 > 5 ユニット/mg タンパク質 (Lowry)

単位定義 1ユニットは、25°CでpH 4.0の条件下でポリガラクツロン酸から 1.0μ モルのガラクトロン酸

を1分あたり放出します。